

会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会 (専門部会)

2 開催日時

令和 6 年 5 月 24 日 (金) 午後 5 時 40 分から午後 7 時 00 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 201 会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

(専門部会委員) 羽賀祥二、河西秀哉、岡本耕平、可児光生、笈真理子、中野裕子

(2) 執行機関

(歴史まちづくり課) 加藤課長、小川課長補佐、市野統括主査、鈴木、河寄、河合

5 議題

(1) 資料編の構成・内容について

(2) 今後のスケジュールについて

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

1. 開会 (羽賀部会長挨拶)

2. 議題

(1) 資料編の構成・内容について

【内容の検討、頁数の調整】

部会長: 5 月 13 日 (月)、15 日 (水)、17 日 (金) に、事務局と私で提出原稿の点検作業を行った。

提出期限 (5 月 7 日) までに原稿修正・削減に応じていただけなかった委員の担当分も、事務局と私の責任で調整 (削減、重複事項の再検討等) を実施。結果をまとめたものが参考資料 1-1、1-2 である。今後、差し替えや追加も予想されるが、本日時点で合計 1,060 頁ほどとなった。最終的な入稿原稿はできるだけ 1,000 頁に近づけられるよう、歴史班を中心に、さらに削減の必要があると考えている。

・原稿検討時の論点

◎テーマもしくは資料の重複は、適宜ふさわしいと考えられる箇所にとまとめた。

◎節・項のタイトルを内容に沿う形に訂正した箇所がある。また、項の下位階層である「目」は削除とした。現状、参考資料 1-2 で「①、②…」と表現されているタイトルは削除・統合し、節内で時系列に並べ直すことになる。

◎原稿量の調節のため、写真・図・グラフ等はできるだけ削除もしくは統合するものとした。これらは通史編（フルカラー仕様）に委ねてもらう。

◎長文の資料・図表は削除もしくは縮減をお願いすることになる。たとえば商工業（第Ⅰ部第 8 章第 5 節・第 6 節）の統計資料で、分量・項目が多すぎて版面に収まりにくい、専門的すぎて一般読者にはふさわしくない、全編掲載で読み取りづらいと思われるものがあった。これらは担当委員の了承を得たうえで削除・調整することになる。

◎該当テーマに関して、補足または差し替えが適切と判断したものがある。これらについても担当委員の了承を得たい。

◎福祉分野（第Ⅰ部第 6 章）は特に超過が多かったので、担当委員に代わって相当に削除・統合させてもらった。これでも少し多いと感じている。

◎具体的な指摘箇所は、参考資料 1-2 の特記事項（ピンク色文字）としてまとめられている。個別・班別に内容を確認してほしい。事務局から連絡して各委員の了承を得る予定だが、得られなかった場合、私がお願いすることもあるかもしれない。（羽賀部会長）

部会長：新たに加わった調査執筆委員から確認事項のメモを受け取っている。重要項目の漏れもあった。区画整理事業については、第Ⅰ部第 1 章で削除予定だった資料を復活させる。就学前の子どもについては、教育分野（第Ⅰ部第 4 章）で「乳幼児教育」の項目を立てることでよいか。保育所の数、園児数の推移など資料はいくつか拾ってある。

委員：メモには「子ども・子育て支援」（第Ⅰ部第 6 章第 3 節）に入れると書いてある。幼稚園ではなく保育所寄りの内容なので福祉分野になる。

部会長：勘違いだった。教育ではなく子育ての問題として扱うものとする。

部会長：この専門部会でも度々議論があった「景観」を、独立項として扱ってはという意見もあった。一案だが、第Ⅰ部第 1 章第 2 節に「3 景観」という項を足し、市全体の内容としてはどうか。該当資料も見繕ってある。その他、都市基盤分野（第Ⅰ部第 7 章）には他にも指摘事項があり、検討会で対応を協議した。

委員：再検討の際は、参考資料 1-2 の特記事項と、確認事項メモ内「5/13・15・17 打ち合わせ」の項目を確認すればよいか。

部会長：それで問題ない。不明点は事務局に問い合わせしてほしい。

部会長：観光分野、第Ⅱ部第 2 章について補足説明したい。頁数が相当膨らんでおり、写真が多くあったことからかなり見直しをお願いすることになる。不本意に思われるかもしれないが、資料で確認のうえ、不明点があれば事務局に問い合わせしてほしい。

委員：自分でも平成後期への偏重が気になっている。調査執筆委員の思いもあると思うので、よく相談する。令和に入ってからのもので、資料は一律削除すべきか。

部会長：基本的には平成末で切るのがよいが、重要事項は必ずしも削除しなくてよい。

事務局：観光統計はコロナ禍前・後の動きを含めた方がよいかもしれない。

委員：部会長と事務局で検討した調整案の結果が 1,060 頁とのこと。もし担当委員が削減を了承しない場合はどうなるか。委員本人が削減に取り組めていない箇所もあるようだが。

部会長：資料の差し替え・追加でまだ頁数は変動する。刊行まで間がなく、委員を説得してでも

了承してもらえないと思っている。委員との折衝はまず事務局が行う。

事務局：参考資料 1-2 では、委員自身が削減したものは黒字+取り消し線、部会長・事務局の調整案はピンク字+取り消し線で表示している。委員の担当分ごとに個別で、調整前／調整後が比較できる資料を付けて調整依頼する。

委員：班を越えて調整したい場合は、一度事務局を通して連絡した方がよいか。

部会長：事務局は全体を把握する必要がある。事務局を通して連絡するものとする。

【付録 DVD・口絵】

部会長：以前からの懸案だった付録 DVD は、資料編の編集で手一杯であり、準備不足のため無理だろうと判断した。可能ならば通史編に回す選択をしたい。民俗班が動画収録を希望し、採録資料を DVD に回したい委員もいると思うが、通史編まで待っていただきたい。

委員：DVD は民俗班の祭礼関連のみを収録する手もある。編集せずそのまま収録できる映像があれば、資料編刊行にも間に合うかもしれない。

事務局：現状、印刷製本業者に細かな映像編集を依頼できる仕様になっていない。平成期の映像は長時間のものしかなさそう。近年の PR 映像なら編集不要のものもあるか。

委員：平成市史なのに令和の映像ではそぐわない。変遷がわかるものならよいか。

事務局：企画広報課、観光協会等にどんな映像が残っているか確認する。映像編集の予算組みも含めて検討する。

部会長：資料編として使えるものが見つからなければ通史編に回すものとする。

委員：『豊田市史』のような付録地図もなしということによいか。

事務局：印刷製本業者との契約上、別紙地図は付けない仕様となっている。

委員：承知した。

部会長：口絵 8 頁分について、委員から候補写真の提案がなかった。市民から寄せられた写真も勘案し、事務局で候補案を作ってもらってはどうか。私としては、平成中期の『広報いぬやま』表紙から、時代の特徴をとらえた写真を選んではどうかと提案した。ほかに案があれば出してほしい。観光・文化班は頁数削減で写真を大幅カットすることになる。候補写真は事務局に伝えてほしい。

委員：犬山キャンペーンの写真はあるとよいか。班内で確認する。

部会長：犬山の景観（犬山城等）がわかる航空写真、祭礼関連もあるとよいか。

委員：平成初期との比較など、航空写真で時代の変化がわかると面白い。

委員：航空写真の場合は犬山のどこを取り上げるか。全市を取り上げるなら衛星画像だが、時代の変化までは見えないかもしれない。もし必要なら専門家に声を掛けてみる。

【解説文】

部会長：今回、大幅な資料の削減や調整を行った。既に解説文を提出いただいた委員にも改稿をお願いしなくてはいけない。二度手間でも申し訳ないがお願いする。未提出の委員については、入稿原稿が確定した段階で書いてもらうこととする。掲載箇所と分量が決まっているので、時間的余裕はあるかと思う。

事務局：入稿前、掲載資料が確定した段階で提出いただけるとありがたい。初校に間に合えば、編さん支援業務を委託している（株）ぎょうせいにも早めに確認してもらえらる。

部会長：原稿整理と執筆作業の同時進行は難しいかもしれない。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局：

①まずは、本日までの協議内容を踏まえた原稿の確認・修正作業を各委員へ依頼。

↓

[6月3日(月)提出締切]

②その後、事務局でとりまとめ・確認後に委員へフィードバックし、さらに確認・修正を依頼。

↓

[6月17日(月)提出締切]

③準備でき次第、順次入稿。

という予定で考えている。印刷製本業者は入札により西濃印刷(株)に決まった。契約がこれからののでスケジュールも流動的だが、6月下旬～7月半ばには入稿を終えたい。

部会長：手慣れており信頼できる会社だが、図表等のレイアウトがある。入稿後、初校紙が出るまでどれくらいかかるかは今後の打ち合わせ次第か。現段階では三校までやることになっており、校了は12月末。あと半年もなく厳しい状況ではあるが、刊行時期が決まっているので仕方ない。

委員：校正段階の原典照合は事務局でやってもらえるのか。我々もやるのか。

部会長：委員自身もやらなければいけない。

事務局：原典照合は事務局でも行うが、執筆者にもお願いしたい。昨年度は原典が出揃わず依頼できなかったが、今年度は契約額の範囲内で(株)ぎょうせいに原典照合を依頼することも可能。今年度も引き続き編さん支援業務を委託し、図版の作成、著作権処理、原稿確認を行ってもらおう。

3. その他

・次回の専門部会は8月上旬の予定。詳細は改めて連絡する。